

小 学 校

平成 2 4 年度

# 教育研究員研究報告書

生 活

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の仮説	3
III	研究の方法	3
IV	研究の内容	3
	1 「気付き」と「振り返り活動」	3
	2 研究主題に迫るための手立て	6
	3 検証授業	8
	実践Ⅰ 第1学年「いきものと なかよし」	8
	実践Ⅱ 第2学年「うごくうごく わたしのおもちゃ」	13
	実践Ⅲ 第2学年「子どもフェスティバルをしよう」	18
V	研究の成果	24
VI	今後の課題	24

## 児童の気づきの質を高める振り返り活動の工夫

### I 研究主題設定の理由

#### 1 設定の理由

知識基盤社会化、グローバル化が一層進展する21世紀には、自分自身で未来を切り開いていく力が必要となる。平成20年3月に改訂された小学校学習指導要領では、前回の改訂に引き続き「生きる力」の理念は継承され、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和が重視され、学校教育においては、児童が生涯にわたって学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得し、これらを活用する力、また、主体的に学習に取り組む態度を養うことが求められている。

生活科は、直接体験を重視した学習活動を行うこと、身の回りの地域や自分の生活に関する学習活動を行うこと、また、それらの学習活動において、自分の生活や自分自身について考えさせたり、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせたりして、自立への基礎を養っていくことをねらいとしている。

しかし、平成20年1月の中央審議会答申では、生活科の課題として、学習活動が体験だけで終わっていることや、活動や体験を通して得られた気づきを質的に高める指導が十分に行われていないこと、表現の出来映えのみを目指す学習活動が行われる傾向があり、表現によって活動や体験を振り返り考えるとといった、思考と表現の一体化という低学年の特質を生かした指導が行われていないことなどが指摘された。

そのため、今回の学習指導要領の改訂では、気づきの明確化と気づきの質を高める学習活動の充実、自然の不思議さや面白さを実感する指導の充実などが示された。

これに対して、実際の指導において教師から「児童の気づきの質をどのように高めていったよいか、具体的な指導について日々思案している。」という声が聞かれる。児童の気づきの質を高める大切さを教師が明確に認識するとともに、気づきの質を高める具体的な指導の在り方が求められている。

そこで、本部会では、児童の気づきの質を高める指導の在り方を探る。気づきの質を高めるには、児童が体験的な活動を行って得た気づきを関連させたり、互いの気づきを交流したりするなどして、新たな気づきへと結び付け、気づきの質を高めていくことが重要である。

そのために、

- ・ 体験的な活動を行った際の振り返り活動に焦点を当て、振り返り活動の際の指導の在り方を追究する。
- ・ 児童が自ら行った具体的活動や体験を振り返り、表現したり互いに交流したりする過程において、教師が適切な働きかけを行う。

という2点より、児童の気づきの質は高まっていくことと考え、本主題を設定した。

## 2 研究の構想

**生活科の改善の基本方針**

- ・人や社会、自然とかかわる活動を充実し、自分自身についての理解などを深める。
- ・気付きの質を高め、活動や体験を一層充実するための学習活動を重視する。
- ・安全教育の充実や、自然のすばらしさ、生命の尊さを実感する学習活動及び幼児教育との連携による異年齢での教育活動を充実する。



**生活科の目標**

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。



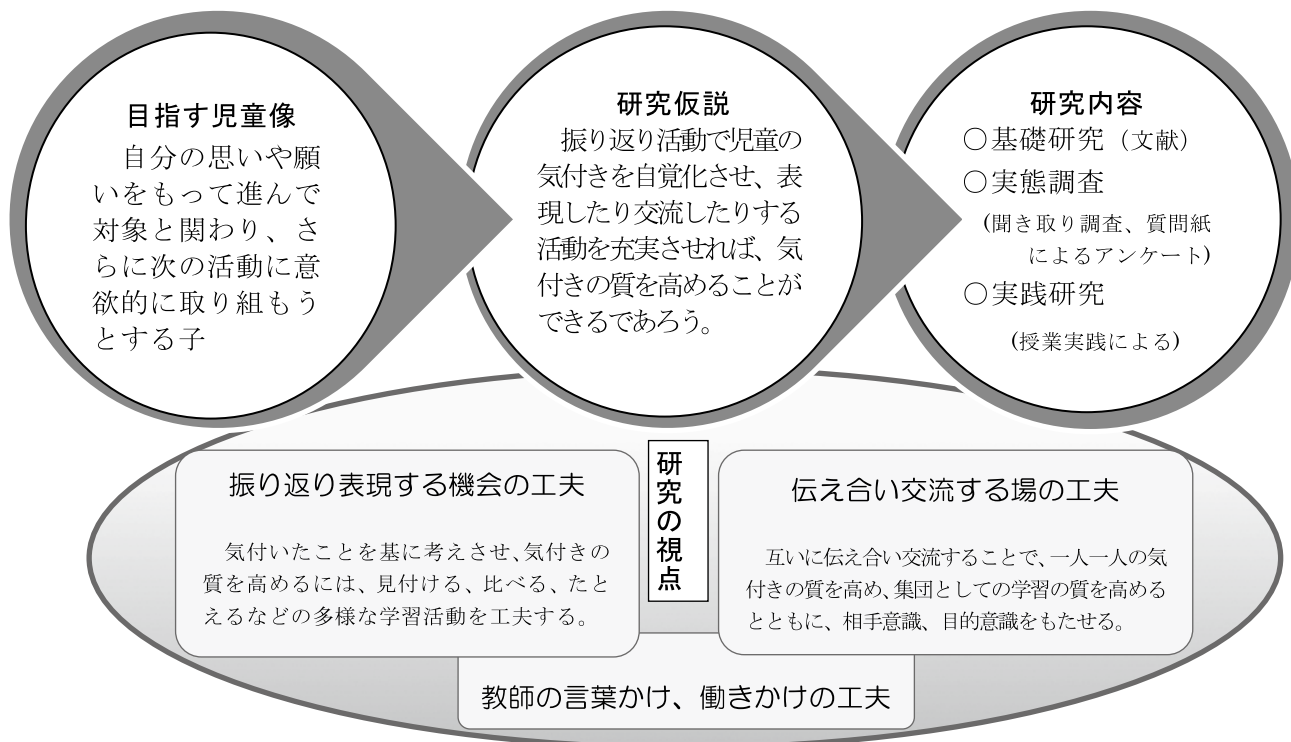
**児童の実態**

- ・生活科の学習への興味・関心は高い。
- ・友達と一緒に活動することや、様々な人たちと仲良くなるのが好きである。
- ・分かったことを、文字や絵などで表現したり発表したりする力は、個人差がある。



平成24年度教育研究員共通研究テーマ  
学習指導要領に対応した授業の在り方

生活部会研究主題  
**児童の気付きの質を高める振り返り活動の工夫**





## II 研究の仮説

振り返り活動で児童の気づきを自覚化させ、表現したり交流したりする活動を充実させれば、気づきの質を高めることができるであろう。

## III 研究の方法

### 1 基礎研究

小学校学習指導要領解説を基に先行研究の分析を行い、振り返り活動について基本的な考え方を明らかにし、児童の気づきの質を高めるための指導方法について検討する。

### 2 実態調査

- ・第2学年児童(研究員所属校)  
生活科への学習意欲等について質問紙によるアンケートを実施する。
- ・生活科を指導する第1・2学年担任教諭(研究員所属校)  
生活科の活動等について聞き取り調査を実施する。

### 3 実践研究

- ・基礎研究及び実態調査を基に仮説を設定し、授業実践を通して仮説の検証を行い、成果と課題を明らかにする。
- ・研究員所属校において、6回の検証授業及び研究協議会を行う。

	日時	授業者	単元名
第1回	平成24年6月21日(木)	清瀬市立芝山小学校 水流 努主任教諭	第2学年 内容(7) 「ぐんぐんそだて」
第2回	平成24年9月21日(金)	墨田区立梅若小学校 大木 めぐみ教諭	第1学年 内容(7) 「いきものと なかよし」
第3回	平成24年10月15日(月)	小平市立小平第六小学校 小西 陽子主任教諭	第2学年 内容(6) 「うごくうごくわたしのおもちゃ」
第4回	平成24年11月5日(月)	江東区立八名川小学校 藤田 暁美主幹教諭	第1学年 内容(7) 「あきのたからものを見つけよう」
第5回	平成24年11月22日(木)	江戸川区立第七葛西小学校 水澤 亜樹主幹教諭	第2学年 内容(8)(5) 「子どもフェスティバルをしよう」
全体会	平成25年2月5日(火)	清瀬市立芝山小学校 水流 努主任教諭	第2学年 内容(7)(8) 「ぐんぐんそだったよありがとう」

## IV 研究の内容

### 1 「気づき」と「振り返り活動」

#### (1) 「気づき」とは

「気づき」は、小学校学習指導要領解説生活編において「対象に対する一人一人の認識」であり、「児童の主体的な活動によって生まれるもの」と定義されている。気づきは、知的な側面だけでなく、情意的な側面も含まれ、「対象への気づき」「自分自身への気づき」がある。気づきとは、対象との関わりなどの体験を通して、試行した中で生まれるものであり、次の自発的な活動を誘発し、児童の意欲的な姿を実現する上で大きな要因となる。

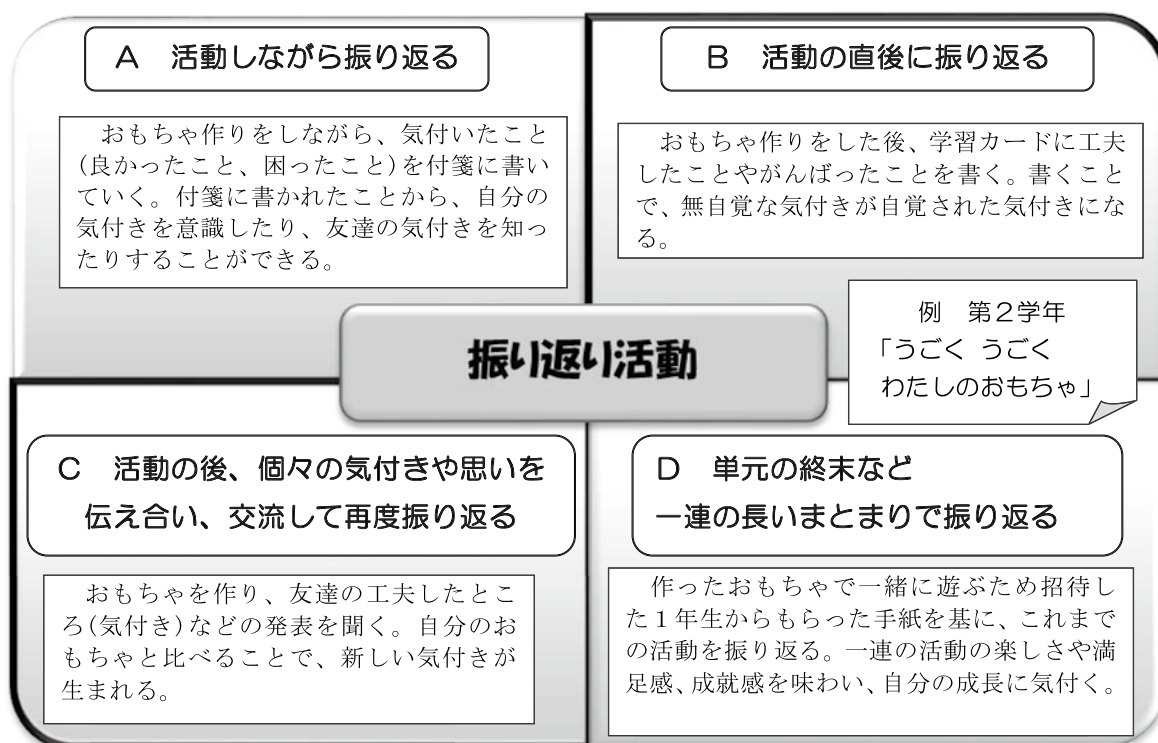
そのために、児童の気づきは、質的に高まることが大切である。平成20年1月の中央審議会答申で、生活科の課題として挙げられている「学習活動が体験で終わってしまう」ことのないように、活動を繰り返したり、対象との関わりを深めたりすることで、体験を充実させ、気づきの質を高めていく。具体的には、見付ける、比べる、たとえるなどの多様な学習活動を行いながら、気づきを比較したり、分類したり、関連付けたりして考え、より質の高い気づきを生

み出していけるようにする。

そこで、児童が自らの気づきを振り返ったり、互いの気づきを交流したりすることができるような活動を、意図的・計画的に位置付けた単元構成や学習環境を設定するなどして、学習指導を行う必要がある。

(2) 「振り返り活動」について

本部会では、『振り返り活動』を4種類に分類して捉えている。



本部会では、振り返り活動の中で、次の二つを重点に研究する。

**B (活動の直後に振り返る)**

**C (活動の後、個々の気づきや思いを伝え合い交流して、再度振り返る)**

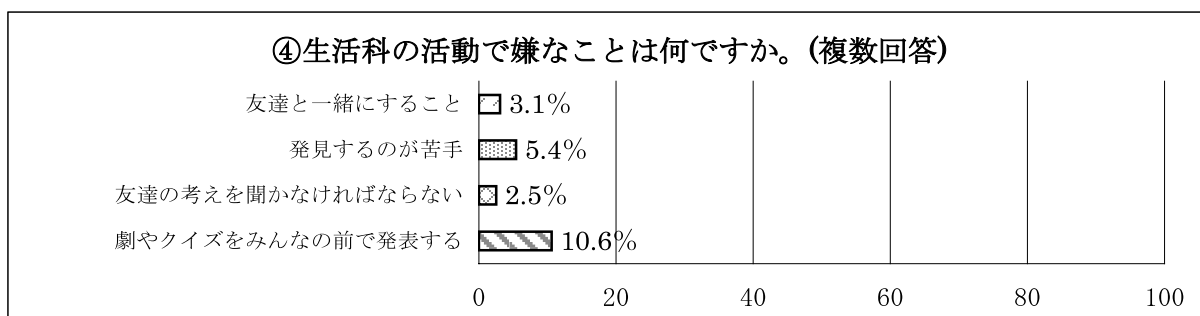
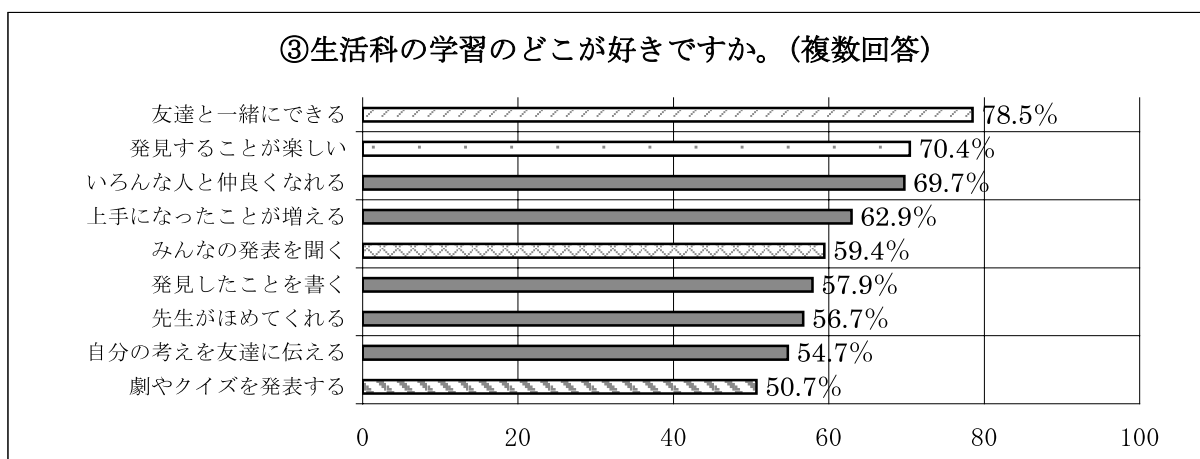
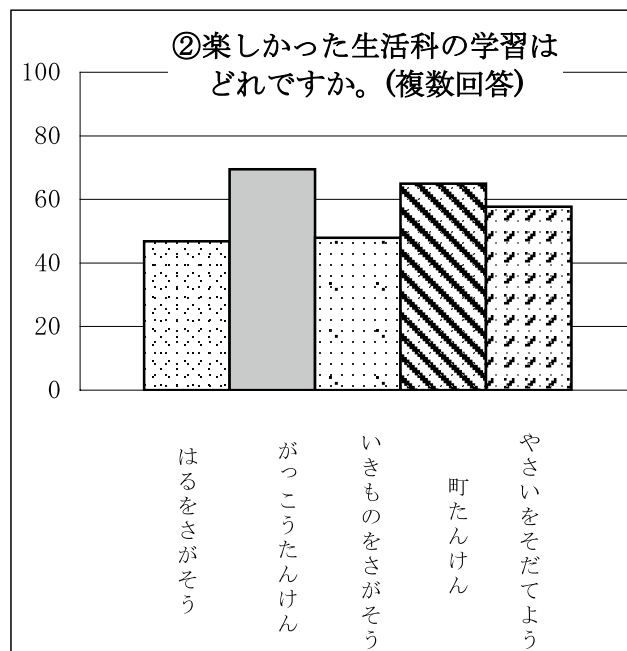
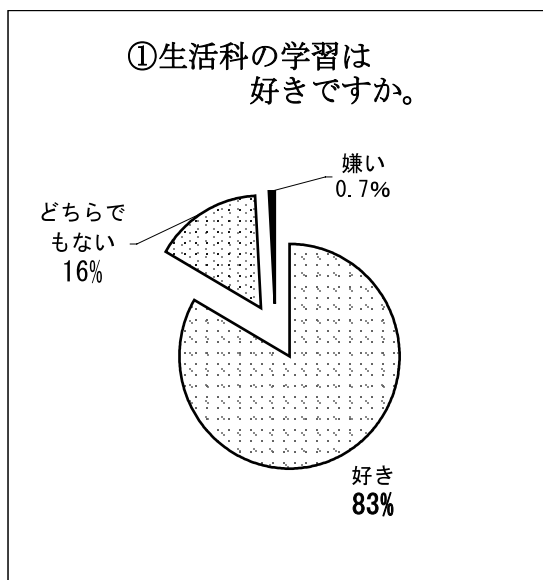
活動の直後に、その活動の中で気付いたことを、個々で振り返り表現することで、無自覚だった気づきを自覚化させることができる。さらに、個々の気づきを伝え合い交流する場面において、教師が適切な働きかけを行えば、無意識のうちにしていた感動や発見を確かなものとし、新たな気づきを生み、気づきの質が高まるであろうと考えた。

(3) 実態調査から

生活科において、児童の実態、指導の実態を踏まえて研究していく必要があると考え、第2学年児童及び第1・2学年の担任をしている教員を対象に実態調査を行った。

(平成24年9月初旬、研究員在籍校5校にて児童319名 教諭21名に実施)

ア 第2学年児童の実態 (質問紙によるアンケート)



### 【考察】

- 生活科への興味・関心は高い。  
80%を超える児童が、「生活科の学習を好き」と答えている。嫌いと答える児童は1%にも満たない。
- 「友達と一緒にできること」「いろいろな人と仲良くなれること」が好きである。  
生活科の学習のどこが好きかという設問に対して、「友達と一緒にできること」を約80%の児童、「いろいろな人と仲良くなれる」を約70%の児童があげられている。「人との関わり」が生活科を好きになる大きな要素であることが分かった。
- 「みんなの前で発表をするのが好き」と約50%の児童が答える一方、それが嫌いなことの原因である児童が10.6%いた。

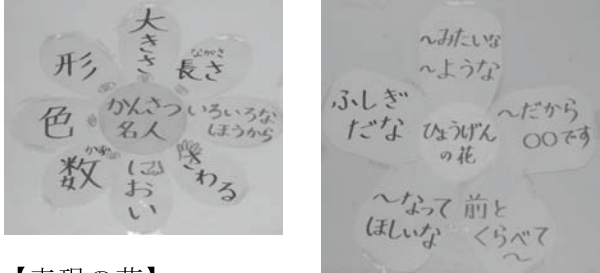
#### イ 指導の実態（第1・2学年担任への聞き取り調査より）

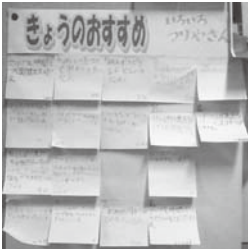
- 活動が楽しい体験だけにとどまり、体験を通してどんなことが得られたか、またそのことが子供の成長にどのような意味をもつかが分かりづらい。
- 児童の気付きの見取りができていない。どのような視点で、児童の気付きや行動、発言を見取るかが難しい。
- 友達同士の交流の仕方をどう工夫するかが難しく、実際にできていない。

以上の調査結果を基にして、「振り返りの活動で児童の気付きを自覚化させ、表現したり交流したりする活動を充実させれば、気付きの質を高めることができるであろう。」という仮説を具体化する手立てを、以下のように考えた。

## 2 研究主題に迫るための手立て

(1) 振り返り表現する機会の工夫	
<p><b>ア 学習カードの形式の工夫</b> <b>○カードに児童の返信欄を設定</b> 活動後の振り返りを行う学習カードの中に「教師からのメッセージ」と「それに対する児童の返信欄」を設け、児童の気付きを的確に見取り、児童の気付きの質が高まるような言葉を投げかける。</p> <p><b>○学習過程(単元の導入、展開、まとめ)に応じた学習カードの工夫</b> <b>【導入段階】</b> 児童が思いや願いをもって取り組むことができるように観察の視点が分かりやすいように、あらかじめ学習カードに示す。</p>	<p><b>イ 教室掲示の工夫</b> <b>○「気付きの質を高める」教室掲示</b> 思考を促すための具体的な児童の言葉を常時教室に掲示し、気付きの質を高めるための言語活動を充実させていく。</p> <p><b>【かんさつの花】</b> 長さ・形・色・ 数・におい・手ざわり</p> <p><b>【発見の花】</b> 「どうしてかな？(疑問)」 「比べてみると(比較)」 「いつもこうなるよ(規則性)」 「なぜかという(根拠)」</p>

<p><b>【展開段階】</b>  様々な活動や対象との関わりの中で、児童が、気づきを自覚したり伝え合ったりすることができるように児童の考えを書き込む欄を設けるなど、形式を工夫する。</p> <p><b>【まとめ段階】</b>  単元全体を振り返ることのできるものにする。その際に、これまで学習してきたカードを活用し、自分の活動を振り返り自分自身への気づきへとつながるようにする。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p><b>【表現の花】</b>  「～みたい」、「～のような」、「□□だから△△です。」「ふしぎだな。」「～になってほしいな。」</p> <p><b>【元気の出る言葉】</b>  「すごいね。」「じょうずだね。」「さすがだね。」「よく考えているね。」「がんばっているね。」「○○さんみたいにやってみてほしいな。」「前より進化しているね。」</p>
--	--

(2) 伝え合い交流する場の工夫	
<p><b>ア 活動しながら気づきを交流する場の設定</b>  <b>○「お試しコーナー」の設置</b>  活動の中で、児童が試行錯誤しながら工夫したり、伝え合ったりする場を設定する。</p> <p><b>ウ 気づきの掲示板の設定</b>  『きょうのおすすめ』『ヘルプ・ミー』  (※児童が名付けた)</p> <p><b>○付箋の活用</b>  よい工夫だと思ったこと(おすすめ)、困ったこと(ヘルプ・ミー)を付箋に書き、掲示する場を設定する。</p> 	<p><b>イ 全体での交流</b>  <b>○気づきの共有</b>  個人の振り返り活動を行った後に、全体で互いの気づきや思いを伝え合い交流する機会を設定する。</p> <p><b>エ 学習形態の工夫</b>  <b>○個→グループ→全体</b>  個で発見した気づきを3～4人のグループで振り返る場面を設ける。その後、クラスで振り返る場面に発展させる。</p>

(3) 教師の働きかけ	
<p><b>ア 言葉かけの工夫</b>  <b>○児童の感情に訴えかける言葉かけの工夫</b>  児童の気づきに対して受容、共感、感動、納得、驚きなどの言葉かけを十分に行うことにより、児童が自信をもって活動に臨み、自身のよさを見出し、実感することができるようにする。</p>	<p><b>イ 気づきの視点の明確な提示</b>  <b>○評価規準に基づいた視点の明確化</b>  児童の気づきを全体で振り返る際に、どのような視点に注目したのか、また、なぜその気づきがあったのかを考えさせる。教師は、評価規準に応じたよさを取り上げ全体に広めていく。</p>

### 3 検証授業

#### 実践事例Ⅰ（第1学年）

#### 1 単元名 「いきもの と なかよし」

#### 2 単元の目標

生き物と触れ合ったり、世話をしたりする活動を通して、生き物への関心と愛着を深め、それらの成長や命の尊さに気付くとともに、生き物を大切にすることができるようにする。

#### 第1学年 内容(7)

動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気づき、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。

### 3 評価規準

	ア 生活への 関心・意欲・態度	イ 活動や体験について の思考・表現	ウ 身近な環境や 自分についての気づき
単元 の 評 価 規 準	ダンゴムシなどの生き物が育つ場所、その変化や成長の様子に関心を持ち、ダンゴムシなどの生き物を大切に育てようとしている。	ダンゴムシなどの生き物を育てることについて、生き物の立場になって考えたり、世話を工夫したり、関わりを振り返ったりして、それを自分なりの方法で表現している。	ダンゴムシなどの生き物は生命をもっていることや成長していること、それに合った世話の仕方があること、及び世話ができるようになった自分に気付いている。
学習活動 (小単元) にお ける 評 価 規 準	1 ①ダンゴムシなどの生き物に関心をもって関わろうとしている。	①生き物を優しくなでたり、触れたりしようとしている。	
	2	②生き物が生息している場所を考えながら、探している。	①生き物を捕まえた場所の特徴に気付いている。
	3 ②ダンゴムシなどの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって、進んで世話をしようとしている。	③ダンゴムシなどの育つ場所、変化や成長について考え、生き物の立場になって世話の仕方を工夫している。	②それぞれの生き物に合った世話の仕方があることに気付いている。 ③生き物は生命をもっていることや成長していることに気付いている。
	4	④世話をしてきた生き物との関わりを振り返り、自分なりの方法で表している。	④生き物への親しみが増し、上手に世話ができるようになったことに気付いている。

#### 4 主題に迫るための主な手立て

##### (1) 振り返り表現する機会の工夫

#### 学習カードの形式の工夫

- ・導入段階 ※第2小単元で使用

観察の視点を予め示し、児童が願いや思いをもって取り組めるようにする。

- ・展開段階 ※第3小単元で使用

対象に直接働きかける活動によって、児童の気付きが生まれやすく、それを自覚したり伝え合ったりすることができるようにする。

- ・終末段階 ※第4小単元で使用

単元全体を振り返ることのできるものにする。その際に、これまでのカードを活用し、自分の活動を見つめ自分自身への気付きとつながるようにする。

(2) 伝え合い交流する場の工夫

**全体で共有する**

体験したり調べたりしたことを伝え合う中で、自分が発見したと友達が発見したことを比べ、似ているところや違うところを見付ける。

- ・一人一人の気付きを全員で共有し、みんなで高めていく。
- ・体験したり調べたりしたことを伝え合う。
- ・自分が発見したと友達が発見したことを比べるように声かけをする

(3) 教師の働きかけ

**言葉かけの工夫**

児童の言動に対して、受容(いい発見だね)、共感(先生もそう思うよ)、感動(すてき!)、納得(なるほど)、驚き(おやおや)などの情緒的な言葉かけを十分に行う。

気付きの質を高めるために、児童の無自覚な気付きに対して、意味付け(それを〇〇と言うんだよ等)、価値付け(それはとても大切なこと等)をする言葉かけや、思考を促す(どうして?)言葉かけを充実させる。

5 単元指導計画 (全9時間)

小単元 (時数)	主な学習活動	○指導上の留意点 ◆評価規準
1 いきものを みつけよう (1)	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"><b>小単元の目標</b> 身近な生き物に関心を持ち、生き物がいそうな場所を探したり、見付けたりすることを通して、意欲的に活動しようとする。</p> <p>①校庭に出て、生き物を探す。 探した生き物をなでたり、触れたりする。</p>	<p>○生き物を持ってきた児童の話から活動への関心を高める。</p> <p>○身近な場所である校内の畑を活動場所にする。</p> <p>◆関①:ダンゴムシなどの生き物に関心をもって関わろうとしている。(行動観察・つぶやき)</p> <p>◆思①:生き物を優しくなでたり、抱いたりしようとしている。(行動観察・発表)</p>

<p>2 いきものをさがそう (2)</p>	<p><b>小単元の目標</b> 校庭の畑などで生き物を探し、それらの生息している場所の特徴に気付くとともに、捕まえた生き物を育ててみたいという思いをもつことができる。</p>	<p>②生き物の生息している場所や捕まえ方などについて情報交換する。 ③捕まえた虫のことや、捕まえた場所のことを振り返り、友達と教え合う。</p> <p>○見付けたこと、分かったことを発表する。 ○前回の活動から学んだことを生かすために、同じ場所で活動する。 ◆思②:生き物が生息している場所を考えながら、探している。(行動観察・発表・学習カード) ◆気①:生き物を捕まえた場所の特徴に気付いている。(行動観察・発表・学習カード)</p>
<p>3 いきものとなかよくなろう (4) 本時 ⑥</p>	<p><b>小単元の目標</b> 捕まえた虫を観察したり、すみかやえさを用意したりする中で、虫の動きや生息環境に気付き、それらを大切に世話することができる。</p> <p>④⑤⑥⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・捕まえた生き物を観察する。</li> <li>・生き物の世話の仕方を聞いたり、図鑑で調べたりする。</li> <li>・生き物の世話をして気付いたり、感じたりしたことを、カードに書く。</li> <li>・自然の中ではどのような状態で生息していたのかを考えてすみかを工夫したり、えさをやったりすることができる。</li> </ul>	<p>○文で書くのが苦手な児童には絵で書くようにさせる。 ○虫を世話している主事さんなどに聞いたり、図書館へ行って調べたりするようにさせる。 ◆関②:ダンゴムシの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって、進んで世話をしようとしている。(行動観察・発表・学習カード) ◆気②:それぞれの生き物に合った世話の仕方があることに気付いている。(つぶやき・発表・学習カード) ◆気③:生き物は生命をもっていることや成長していることに気付いている。(行動観察・発表・学習カード) ◆思③:ダンゴムシなどの育つ場所、変化や成長について考え、生き物の立場になって世話の仕方を工夫している。(つぶやき・行動観察・学習カード)</p>
<p>4 なかよしはつぴょう (2)</p>	<p><b>小単元の目標</b> 世話をしてきた生き物との関わりを振り返り、上手に世話ができるようになったことやそれらの生き物が自分と同じように生きていることに気付く。</p> <p>⑧⑨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙芝居や劇など、自分なりの方法で表現する。</li> </ul>	<p>◆思④:世話をしてきた生き物との関わりを振り返り、自分なりの方法で表している。(発表・学習カード) ◆気④:生き物への親しみが増し、上手に世話ができるようになったことに気付いている。(発表・学習カード)</p>

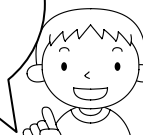


5 本時の指導 (6 / 9)

(1) 本時の目標

○すみかやえさなどについて世話の仕方を工夫し、生き物の立場になって今後の飼育活動の見通しをもつことができる。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	指導上の留意点【○教師の働きかけ ◆評価(評価方法)】
<p>1 これまでの活動を想起し、気付いたことや感じたこと、分かったことなどを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンゴムシは石の下にいるよ。</li> <li>・バッタは葉っぱを食べるって、図鑑に書いてあったよ。</li> </ul> <p>2 本時の課題を確認する。</p>	<p>○これまでの活動を振り返ったり、「はっけんコーナー(掲示物)」に触れたりして、振り返りやすくする。</p> <p>○児童の考えや発言を認め意欲を喚起させる。</p> <p>○写真を掲示し、生き物が生息していた場所を想起しやすいようにする。</p>
<p><b>いきもの すみやすい おうちを かんがえよう。</b></p>	
<p>3 すみかやえさなどの工夫をして世話をする。</p> <p>○アイデアをいかして、生き物にとって住みやすい家を考える。</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-right: 20px;"> <p>ダンゴムシは石の下にいたから、石を用意しよう。</p> </div>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-left: 20px;"> <p>バッタは葉っぱを食べるから、畑から葉っぱを持ってこよう。</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p><b>活動</b></p> </div> <p>4 工夫したことをカードに表す。</p> <p>○工夫したこと、工夫して気付いたことや分かったことなどをカードに表す。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p><b>振り返り活動B</b></p> </div> <p>5 本時の活動を振り返る。</p> <p>○カードに表したことを発表する。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p><b>伝え合い 交流する場</b></p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p><b>振り返り活動C</b></p> </div>	<p>○児童が発見したことや行動していることに対して、共感したり理由を尋ねたりする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 40%;"> <p>「いい発見(アイデア)だね!」 「先生もそう思うよ。〇〇さんと同じ考えだね。」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 40%;"> <p>「何みたい?」「何に似てる?」「それって、〇〇ってことかな?」</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> <p>「どうしてそう思ったの?」 「それって、どういうことかな?」「別の言葉で言うとき?」</p> </div> <p>○一人一人の気づきを共有できるように、発表を学級全体で行う。</p> <p>◆思③:ダンゴムシなどの育つ場所、変化や成長について考え、生き物の立場になって世話の仕方を工夫している。(つぶやき・行動観察・学習カード)</p>

## 6 実践を振り返って

### (1) 振り返り表現する機会の工夫

#### 学習カードの形式の工夫

##### ・展開段階

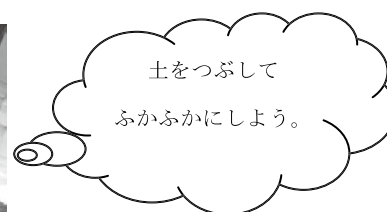
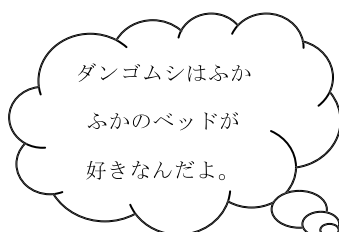
導入段階で使った学習カードの児童の思いや願いを生かして、展開段階のカードを作ったことで、児童の思考が途切れずに活動できた。また、学習カードに、「おうちのなまえ」や吹き出しを作ることで、児童の思いが生き物に向けて、生き物に寄り添う気づきを記すことにつながった。



### (2) 伝え合い交流する場の工夫

#### 全体で共有する

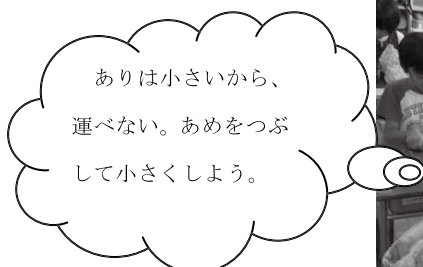
- ・交流する場を設定したことで個々の気づきが共有され、そこから新たな気づきが生まれ、各自の気づきの質を高めることができた。



### (3) 教師の働きかけ

#### 言葉かけの工夫

- ・活動している最中にも、思考を促す言葉かけ（「どうしてそう思ったの？」「別の言葉で言う？」など）をすることで、自分の活動を振り返り、より質の高い気づきへとつなげることができた。



ありの好きなあめを持っ てきたんだね。ありさん、 運べるかな？

## 実践事例Ⅱ（第2学年）

1 単元名 「うごくうごく わたしのおもちゃ」

### 2 単元の目標

身近にある物を使って動くおもちゃを作り、友達と競争したり、工夫を教え合ったりしながら、自分なりに改良することを通して、動くおもちゃの面白さや不思議さを実感するとともに、遊び方を工夫しながら、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

#### 第2学年 内容(6)

身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

### 3 評価規準

	ア 生活への 関心・意欲・態度	イ 活動や体験について の思考・表現	ウ 身近な環境や 自分についての気付き
単元 の 評 価 規 準	身近な物を利用してつくった動くおもちゃやその遊びに関心を持ち、みんなで楽しく遊ぼうとしている。	身近な物を利用して動くおもちゃを考えたり、その遊びに使う物を自分なりに工夫したりしておもちゃを作り、おもちゃランドを作って遊んでいる。	動くおもちゃの動きの面白さや不思議さ、その遊びに使う物を作る面白さ、みんなで遊ぶ楽しさに気付いている。
学習活動（小単元） における 評価規準	1 ①身近な物を利用した遊びや動くおもちゃづくりに関心を持ち、友達と遊ぼうとしている。		①身近な物を利用して、動くおもちゃを作って遊ぶことや動きを工夫させる面白さに気付いている。
	2 ②おもちゃにあった動きへの思いや願いを持ち、動くおもちゃを作ろうとしている。	①友達と比べたり、試したりしながら動くおもちゃを工夫して作っている。	②おもちゃの動きの面白さや不思議さ、友達と関わって遊ぶ楽しさ、友達のよさ、自分との違いに気付いている。
	3 ③おもちゃランドに1年生を招待して、一緒におもちゃで遊ぶことを楽しみにしている。	②おもちゃランドの約束やルールなどを考え、遊びを創り出している。	③友達と協力し合って、おもちゃランドができた喜びを感じ、自分や友達のよさに気付いている。

### 4 主題に迫るための主な手立て

(1) 振り返り表現する機会の工夫

#### 学習カードの形式の工夫

活動後の振り返りを行う学習カードの中に「教師のメッセージ欄」と「それに対する児童の返信欄」を設け、児童の気付きに対して、そのおもちゃの工夫のよさを認め、思いや考えが広がったり深まったりするような言葉かけを行い、気付きの質を高めていく。

教師が、新たな視点や疑問を投げかけることを通して、気付きを自覚させたり、これまでの経験などと関連させ、自分自身の成長に目を向けさせたりする。

(2) 伝え合い交流する場の工夫

**活動しながら気付きを交流する場の設置**

「お試しコーナー」を設置し、児童が思い思いに試行錯誤しながら活動する中で、主体的に友達と関わり、自分で作ったおもちゃの工夫について伝え合えるような場を設置する。

活動しながら友達と交流することで、自分と友達の対象（おもちゃ）を比べたり、これまでの経験と関連付けたりし、新たな工夫が生まれる。

(3) 教師の働きかけ

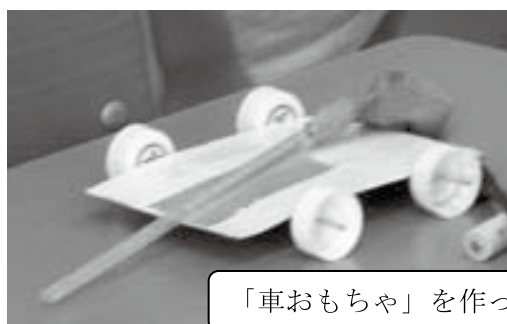
**言葉かけの工夫**

児童の言動に対して、受容(いい発見だね)、共感(先生もそう思うよ)、感動(すてき!)、納得(なるほど)、驚き(おやおや)など、児童の感情に訴えかける言葉かけを十分に行う。

気付きの質を高めるために、児童の無自覚な気付きに対して、意味付け(それを〇〇と言うんだよ等)、価値付け(それはとても大切なこと等)をする言葉かけや、思考を促す(どうして?)言葉かけを充実させる。

**5 単元指導計画 (全 13 時間)**

小単元 (時数)	主な学習活動	○指導上の留意点 ◆評価規準
1 ピ ョ ン ピ ョ ン う さ ぎ を 作 っ て 遊 ぼ う (3)	<p><b>小単元目標</b> 教師が作ったピョンピョンうさぎに関心をもち、身近にある材料を利用して動くおもちゃを作って遊ぶと楽しいことに気付き、遊ぼうとする。</p> <p>①②「ピョンピョンうさぎ」 を作って遊ぶ。</p> <p>③工夫して「ピョンピョン うさぎ」を作って遊ぶ。</p>	<p>○児童に提示するピョンピョンうさぎは、仕組みが分かりやすいように、シンプルなものにする。</p> <p>○友達と相談しながら作ってよいことを知らせ、作りながら気付きを交流できるよう、場を保障する。</p> <p>◆関①:身近な物を利用した遊びや動くおもちゃ作りに関心をもち、友達と遊ぼうとしている。(行動観察・発言)</p> <p>○前時の振り返りの言葉から本時のめあてを考える。</p> <p>○工夫について、児童の思いや考えを生かして、高さやすばやさ等の動きに視点を当て、さらなる工夫を促す。</p> <p>◆気①:身近な物を利用して、動くおもちゃを作って遊べることや動きを工夫させる面白さに気付いている。</p> <p>(学習カード・行動観察)</p>



「車おもちゃ」を作って遊ぶ。


<p>2</p> <p>「車おもちゃ」を作つてあそぼう (5)</p> <p>本時 ⑦</p>	<p><b>小単元の目標</b> 動きへの思いや願いをもって、比べたり、試したりしながら「車おもちゃ」を工夫してつくろうとする。</p> <p>④教師が用意した「車おもちゃ」で遊び、見通しをもたせ、振り返りができるように設計図を書く。</p> <p>⑤⑥設計図に沿って「車おもちゃ」を作る。</p> <p>⑦⑧工夫して「車おもちゃ」を作つて遊ぶ。</p>	<p>○教師が用意する「車おもちゃ」は、児童が動きに注目したり新たに工夫したりできるように、動力がないシンプルなものにする。</p> <p>◆関②:おもちゃの動きへの自分の思いや願いをもち、動くおもちゃを作ろうとしている。(設計図・行動観察)</p> <p>○同じような材料を使っているメンバーでグルーピングして、おもちゃの動きについて話し合えるようにする。</p> <p>○繰り返し作つて試したり、遊んだりできるように、作る場所と遊ぶ場所を設定する。</p> <p>◆関②:おもちゃの動きへの自分の思いや願いをもち、動くおもちゃを作ろうとしている。(設計図・行動観察)</p> <p>○設計図に新しく考えたことや工夫したことを赤で書き加え、改善の見通しをもてるようにさせる。</p> <p>◆思①:友達と比べたり、試したりしながら動くおもちゃを工夫して作っている。(設計図・行動観察・学習カード・作品)</p> <p>◆気②:おもちゃの動きの面白さや不思議さ、友達と関わって遊ぶ楽しさ、友達のよさ、自分との違いに気付いている。(行動観察・学習カード)</p>
<p>3</p> <p>おもちゃランドを開こう (5)</p>	<p><b>小単元の目標</b> おもちゃランドで、友達と関わりながら遊びやルールを工夫し、1年生と一緒に遊ぶ楽しさや友達のよさ、自分との違いに気付き、みんなで楽しく遊ぼうとする。</p> <p>⑨⑩⑪自分たちが作ったおもちゃで1年生に遊んでもらうおもちゃランドの計画を立て、準備をする。</p> <p>⑫⑬</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おもちゃランドを開く。</li> <li>・単元の振り返りをする。</li> </ul>	<p>○1年生に楽しんでもらうには、どんな工夫が必要かを話し合わせ、ルールやルール説明を考える根拠にさせる。</p> <p>◆関③:おもちゃランドに1年生を招待して、一緒におもちゃで遊ぶことを楽しみにしている。(行動観察・学習カード)</p> <p>◆思②:おもちゃランドの約束やルールなどを考え、遊びを創り出している。(行動観察・学習カード)</p> <p>○活動の時間や役割を提示し、おもちゃランドを自分たちで進められるようにする。</p> <p>○単元の振り返りでは、自分の頑張ったことや嬉しかったこと、友達のよかったところなどの振り返るポイントを示し、自分や友達のよさに気付けるようにする。</p> <p>◆気③:友達と協力し合つて、おもちゃランドができた喜びを感じ、自分や友達のよさに気付いている。(学習カード)</p>

## 5 本時の指導（7／13）

### （1）本時の目標

○友達と比べたり、試したりしながら「車おもちゃ」を工夫して作る。

### （2）本時の展開

学 習 活 動	指導上の留意点【○教師の働きかけ ◆評価（評価方法）】
<p>1 本時の流れとめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <b>ぼくのわたしの「車おもちゃ」をパワーアップさせよう。</b> </div>	
<p>2 前時までの活動を想起し、パワーアップさせるために各自で取り組みたいことを発表する。</p> <p>3 自分が決めた方法で、「車おもちゃ」を作る。</p> 	<p>○本時の活動（パワーアップさせる）の見通しをもたせるために、ゴムや風などの全ての動力のおもちゃについて発表させ、パワーアップさせる視点（遠くに、速く）を確認する。</p> <p>○はさみや千枚通しの扱い方には置き場所を決めるなど、安全に十分に留意して活動できるように助言する。</p> <p>○友達と相談しながら作ってもよいことを伝え、交流を促す。</p> <p>○車おもちゃで遊ぶ場所を確保する。</p> <p>○児童が発見したことや行動に対して、そのよさを認めるような言葉かけを行い、児童の活動する意欲を高める。</p> <p>◆思①：友達と比べたり、試したりしながら車おもちゃを工夫して作っている。 （行動観察・学習カード・作品）</p>
<p>4 本時の学習を振り返り、<b>活動</b>学習カードに書く。</p> <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px; display: inline-block;">活動</div>  ↓  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px; display: inline-block;">振り返り活動B</div> </div>	<p>○学習カードに、自分が工夫したことや新しい発見や疑問について書くように伝え、いつでも気付きを振り返ることができるようにする。</p>
<p>5 クラス全体で振り返りの交流を行う。</p> <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px; display: inline-block;">伝え合い交流する場</div>  ↓  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px; display: inline-block;">振り返り活動C</div> </div>	<p>○友達のおもちゃ作りの発表を、自分のおもちゃ作りと比較したり関連付けたりしながら聞くよう促し、再度振り返られるようにする。</p>
<p>6 次時への見通しをもつ。</p>	<p>○次時に工夫したい取組をイメージできるように、発表された内容についてキーワードを板書し、学んだことを整理して提示する。</p>



## 6 実践を振り返って

### (1) 振り返り表現する機会の工夫

#### 学習カードの形式の工夫

- ・第1時の活動後の振り返りでは、「ぴよんぴよんうさぎ」が高く跳んだうれしさを書いていた。そこで、教師が高く跳んだ理由を問うと、児童は高く跳んだ結果とゴムの太さを関連付けて考え、「ぴよんぴよんうさぎ」を高く飛ばすためには、ゴムを太くするだけでなく全体の重さについてバランスをとることが大切であると気付いていた。
- ・第6時の活動後の振り返りでは、車の動きの違いについて、友達と一緒に車を走らせたり相談したりする中で、帆の大きさを試行錯誤の中で変更し、さらによりよい動きをするために、帆の向きなどの要因を考えたり、探したりしながら、自らの活動を振り返ることができた。

#### ア 第1時の学習カード

生活科カード 「うごくうごく ぼくとわたしのおもちゃ」  
9月19日 名前( )

まえよりたかくさかたによ?

はじめはぜんぜんとはなからたのび  
今日ついたらとてもたかくとびました  
こせつかというまえよりも、こせつかに  
わづかを二本つかいました。いしは太い  
ごまがつかうとぜんぜんとはなからたのび  
ちんたらかんしてほそのをもうい

教師からのメッセージ  
高く跳んでよかったね! ○○ちゃんの輪ゴムだと、なぜ高く跳んだのかな? 理由を教えてください!

活動後の振り返り  
はじめ(休み時間に作っていたときは全然跳ばなかったのに、今日は跳びました。途中で、○○ちゃんの輪ゴムをもらいました。それで作ると高く跳びました。とっても嬉しかったです。

それに対する児童の返信  
○○ちゃんの輪ゴムは、細いです。たぶん、太すぎると重たくてダメなのかもしれない。ちょっと細い方がいい感じですよ。

#### イ 第6時の学習カード

生活科カード 「うごくうごく ぼくとわたしのおもちゃ」  
10月15日 名前( )

ビニールぶくろをもらいました!

今日は車のおもちゃを改造しました。その計画は、ビニール袋に風を当てて走らせるという作戦です。割り箸を2本車体に立ててビニール袋に付けました。前に段ボールで帆を作ったときよりも、遠くまで進んで大成功でした。なぜかという、段ボールよりもビニール袋の方が軽かったからだと思います。あと、○○ちゃんと相談したら、たぶん帆の大きさを大きくしたら風が集まるんじゃないかと思ったので、試してみたいです。

教師からのメッセージ  
すごい! 段ボールとビニール袋を比べて、帆は軽い方がいいことを発見したんですね! ○○ちゃんと相談した方法も、試してみよう!

活動後の振り返り  
今日は、車おもちゃを改造しました。その計画は、ビニール袋に風を当てて走らせるという作戦です。割り箸を2本車体に立ててビニール袋に付けました。前に段ボールで帆を作ったときよりも、遠くまで進んで大成功でした。なぜかという、段ボールよりもビニール袋の方が軽かったからだと思います。あと、○○ちゃんと相談したら、たぶん帆の大きさを大きくしたら風が集まるんじゃないかと思ったので、試してみたいです。

それに対する児童の返信  
何度も試して発見しました。次は帆の大きさを試して、もっと車を遠くへ走らせたいです。

## (2) 伝え合い交流する場の工夫

### 全体での共有

おもちゃの動きについて、動きの原因を個人で振り返った後に、クラス全体でおもちゃの動きについて気が付いたことを交流する場を設定することで、児童は自分が発見したことで友達が発見したことを比べたり、関連付けたりして、よい工夫を自分のおもちゃに取り入れ、意欲的に活動することができた。

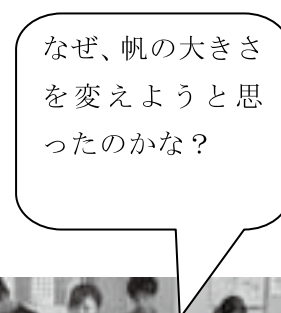
## (3) 教師の働きかけ

### 言葉かけの工夫

思考を促すための具体的な児童の言葉（比べると…、どうして…、なぜかという…、いつもこうなるよ等）を常時掲示して教室環境を整え、授業の導入やまとめで児童が気付きを発表する際に活用することができた。



A君と比べると  
どこが違っている  
かな？



なぜ、帆の大きさを  
換えようと思  
ったのかな？



## 実践事例Ⅲ（第2学年）

1 単元名 「子どもフェスティバルをしよう」

### 2 単元の目標

地域の行事に関わる活動やそれらを身近な人々と伝え合う活動を通して、季節によって生活の様子が変わることに関心、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりするとともに、互いの思いを知り、進んで交流することができるようにする。

#### 第2学年 内容

- (8)自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。
- (5)身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。



### 3 評価規準

	ア 生活への 関心・意欲・態度	イ 活動や体験についての 思考・表現	ウ 身近な環境や 自分についての気付き
単元の評価規準	自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合うことに関心をもち、進んで交流したり、楽しく生活しようとしている。	自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動について、自分なりに考えたり、工夫したり、振り返ったりしている。	身近な人々と関わることの楽しさが分かり、互いに交流することのよさに気付いている。
学習活動（小単元） における評価規準	1 ①学校で行われている地域のまつりに目を向け、関心をもって関わろうとしている。 ②思いや願いをもって、自分たちの手でまつりを行おうとしている。		①学校で行われている地域のまつりには、地域の人々の思いや願いが織り込まれていることに気付いている。
	2 ③伝えたいことを見付けたり、集めたりしようとしている。 ④思いや願いをもって、地域の行事に関わる活動を行おうとしている。	①学校で行われている地域のまつりの体験を基に、楽しさを伝えるために工夫している。 ②みんなの思いや願いが織り込まれるような子どもフェスティバルの準備をしている。	②相手（祭りに招待した1年生）や目的（1年生が楽しめる）に応じた伝え方が分かっている。
	3 ⑤相手や目的に応じて、伝えたいことを表現しようとしている。 ⑥子どもフェスティバルを行い、自分たちの生活を工夫したり、楽しんだりしようとしている。	③相手の気持ちを考え、表情やしぐさ、態度などで気持ちを表し、交流している。 ④子どもフェスティバルを振り返り、自分たちなりの方法で表している。	③相手のことや相手が伝えたいと考えていることを理解できる楽しさが分かっている。

### 4 主題に迫るための主な手立て

#### (1) 振り返り表現する機会の工夫

##### 学習カードの形式の工夫 ※第3小単元で使用

活動後の振り返りを行う学習カードの中に、「教師のメッセージ欄」と「それに対する児童の返信欄」を設ける。「教師のメッセージ欄」には、まつりに招待する1年生の立場になって準備を工夫して進めているよさを認め、児童の思いや考えが広がったり深まったりするような言葉かけを行い、気付きの質を高めていく。

#### (2) 伝え合い交流する場の工夫

##### 気付きの掲示板『きょうのおすすめ』『ヘルプ・ミー』の設置（付箋の活用） ※第2小単元で使用

児童がまつりの準備をする中で、楽しませるためには良い工夫だと思ったこと（おすすめ）、困ったこと（ヘルプ・ミー）を付箋に書き、貼っていく場を設定することで、情報を積極的に活用しようとする態度を養うとともに、教師が児童の気付きを見取り、適切な支援ができるようにする。

児童が自らの気づきを付箋に書くことで振り返ったり、付箋を見合うことで互いの気づきを交流したりして、より質の高い気づきを生み出せるようにさせる。

(3) 教師の働きかけ

**言葉かけの工夫**

まつりを準備する児童の言動に対して、受容(いい発見だね)、共感(先生もそう思うよ)、感動(すてき!)、納得(なるほど)、驚き(おやおや)などの児童の感情に訴えるような言葉かけを十分に行うとともに、意味付け(それを〇〇と言うんだよ等)、価値付け(それはとても大切なこと等)をする言葉かけや、思考を促す(どうして?)言葉かけを充実させる。

**5 単元指導計画 (全 12 時間)**

小単元 (時間)	主な学習活動	○指導上の留意点 ◆評価規準
1 七小ともだちまつりのお話を聞こう(2)	<p><b>小単元の目標</b> 学校等で行われる地域のさまざまなまつりに関心を持ち、自分たちのまつりをしようとする。</p> <p>①七小ともだちまつりと、学校に関わる人々と生活との関わりを聞き、まつりに関心をもつ。</p> <p>②まつりに参加した感想を出し合 ※休日開かれるまつりに参加する。</p> <p>する。</p> <p><u>感想例</u> ・楽しかった。・大人がたくさん準備をしていた。・片付けを最後までやっていた。</p>	<p>○まつりの資料等を掲示して、まつりの楽しさを感じ取らせ、自分達でまつりを取り組もうとする意欲を高める。</p> <p>◆関①:学校で行われている地域のまつりに目を向け、関心をもって関わろうとしている。(発言)</p> <p>○出された感想をカードに短く記入し、見出しに合わせて整理することで、地域の人々の思いに気付かせる。</p> <p>◆気①:学校で行われている地域のまつりには、地域の人々の思いや願いが織り込まれていることに気付いている。(発言)</p> <p>◆関②:思いや願いをもって、自分たちの手でまつりを行おうとしている。(発言)</p>

どんぐりがペットボトルから出てこないよ。どうしよう。



ヘルプ・ミーに書いて、みんなに聞いてみようよ。


<p>2 子どもフェスティバルの計画を立てよう(7) 本時(6)</p>	<p style="text-align: center;"><b>小単元の目標 1年生と一緒に楽しめるフェスティバルの準備をする。</b></p> <p>③④子どもフェスティバルの計画を立てる。 〈全体〉 ・どんな子どもフェスティバルにしたいのか、考える。 ・どんなことを準備するのか考える。「出店」 「看板」「ちらし」「シフレット(案内図)」 〈店ごと〉 ・どんな店にするのか。 ・店の準備に必要な物があるか。 ⑤⑥⑦⑧ 児童の考えた出店の準備をする。 ・秋のつくりものやさん (アクセサリー作り、どんぐりごま作りなど) ・秋のあそびやさん (的当て、迷路、くじ引き、つりなど) ⑨1年生にあてた招待状を作る。</p>	<p>○子どもフェスティバルを行う場所、時間を具体的に示すことで、活動の見通しをもたせる。 ○どんな思いや願いを込めるのか、1年生に楽しんでもらう等の視点を黒板に掲示し、準備させる。 ○良い工夫だと思ったこと(おすすめ)、困ったことを付箋に書かせることで振り返ったり、付箋を見合うことで互いの気付きを交流したりして、より質の高い気付きを生み出せるようにさせる。 ◆関③:伝えたいことを見付けたり、集めたりしようとしている。(行動観察・発言・計画書) ◆関④:思いや願いをもって、地域の行事に関わる活動を行おうとしている。(行動観察・発言・計画書) ◆思①:七小ともだちまつりの体験を基に、楽しさを伝えるために工夫している。(行動観察・発言・付箋・計画書) ◆思②:みんなの思いや願いが織り込まれるような子どもフェスティバルの準備をしている。(行動観察・発言・付箋・計画書) ◆気②:相手や目的に応じた伝え方が分かっている。(行動観察・発言・付箋・計画書)</p>
<p>3 子どもフェスティバルを楽しもう(3)</p>	<p style="text-align: center;"><b>小単元の目標 1年生と一緒に子どもフェスティバルを楽しもうとする。</b></p> <p>⑩⑪子どもフェスティバルを楽しむ。 ⑫メッセージカードを紹介しよう。</p>	<p>○お店に来た人が待つ場所や、はさみなどの道具の置き場を決めるなど、安全に気を付けて交流することを確認する。 ○1年生にメッセージカードを書いてもらうことで、自分たちの思いが伝わったことを実感できるようにさせる。 ◆関⑤:相手や目的に応じて、伝えたいことを表現しようとしている。(行動観察・発言・学習カード) ◆関⑥:子どもフェスティバルを行い、自分たちの生活を工夫したり、楽しくしたりしようとしている。(行動観察・発言・学習カード) ◆思③:相手の気持ちを考え、表情やしぐさ、態度などで気持ちを表し、交流している。(行動観察・発言) ◆思④:子どもフェスティバルを振り返り、自分たちなりの方法で表している。(行動観察・発言・学習カード) ◆気③:相手のことや相手が伝えたいと考えていることを理解できる楽しさが分かっている。(行動観察・発言・学習カード)</p>

## 5 本時の指導（6／12）

### （1）本時の目標

○友達と話し合い協力しながら、お互いの考えを認め合ったり、お客さんの気持ちを考えたりして、みんなが楽しめる店になるよう、出店の準備をすることができる。

### （2）本時の展開

学 習 活 動	指導上の留意点【○教師の働きかけ ◆評価(評価方法)】
1 子どもフェスティバルのめあてを確認し、意欲を高める。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: fit-content;"> <p>「楽しい」「おもしろい」「なかよくできる」「1年生がよろこんでくれる」 子どもフェスティバルのじゅんびをしよう。</p> </div>	
<p>・開く日を確認する。</p> <p>・本時で行うことを確認し、見通しをもたせる。</p> <p>①めあての確認②出店の準備 ③学習の振り返り「おすすめカード」「ヘルプカード」の記入 ④クラス全体での振り返り</p> <p>2 出店の準備をする。</p> <p>・どんな出店にしたいのかななどを、具体的に話し合いながら準備をする。</p> <p>・材料を選び、作りながら遊んでみる。</p> <p>・1年生を楽しませることを意識しながら考えを出し合い、より楽しい出店にする。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">活動</div> ↓         </div> <p>3 本時の学習を振り返り、付箋に書く。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 200px;"> <p>きょうのおすすめ 時間制限があった方が、楽しいと思います。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px; text-align: center;"> <p>振り返り活動B</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 200px;"> <p>ヘルプ・ミー ポーリングをするのには、どここの場所を使ったらいいのか、困っています。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px; text-align: center;"> <p>伝え合い 交流する場</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">振り返り活動C</div> ↓         </div> <p>4 クラス全体で振り返りの交流を行う。</p> <p>・今日のおすすめ、困っていることを発表する。</p>	<p>○店の準備のときには、1年生の視点に立ち、店の説明を聞き、やっていることを見てすぐに理解でき、楽しんでもらえる店を作ることを意識するように伝える。</p> <p>○児童のアイデアを生かすことができるように、材料や紹介の仕方をアドバイスする。</p> <p>○はさみや千枚通しの扱い方には充分注意して、安全面に留意して活動できるように助言する。</p> <p>◆思考①：学校で行われている七小ともだちまつりの体験を基に、楽しさを伝えるために工夫している。(行動観察・発言・付箋・計画書)</p> <div style="margin: 10px 0;"> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px; margin-right: 20px;"> <p>好きな形を選んで作った方が、1年生は楽しいよ。</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px; margin-left: 20px;"> <p>秋のおまつりだから、看板も秋らしくすると、みんなわくわくするよ。</p> </div> </div> </div> <p>○何を書いたらよいか困っている子には、店の準備でよかったことは何か聞くことで、「今日のおすすめ」を書くようにさせる。</p> <p>○友達の発表から、自分たちの店と比較させるような声かけをして、似ているところや違うところを見付けさせる。</p> <p>○自分がかんばったこと、友達のよかったことを認め合う時間を設定し、交流を促す。</p> <p>○お互いの考えを認め合ったり、1年生の気持ちを考えたりして、協力している児童のよさをほめ、次の活動への意欲を高める。</p>
5 次時への見通しをもつ。	

## 6 実践を振り返って

### (1) 振り返り表現する機会の工夫

#### 学習カードの形式の工夫

「教師のメッセージ欄」と「児童の返信欄」を設けたことで、児童は教師とのやり取りを意欲的に行うようになり、自分の思いを率直に振り返ることができた。

#### 気付きの掲示板の設置（付箋の活用）※『きょうのおすすめ』『ヘルプ・ミー』

第6時の検証授業をでは、付箋を使って振り返ることは、活動の後に行った。しかし、児童が活動しながら、「今、困っていることを書きたい。」と発言することがあったことを生かして、活動中にも行う方がより有効なのではないかと考えた。活動中に行う振り返りにより、自分の気付きを他の児童との気付きと共有させ、すぐに様々な考えをつなげることができる。

そこで、第7時では付箋を活動中に記入するようにした。すると、ある児童が困っていることを記した付箋を、別の児童が見て、アドバイスをするようになり、そのアドバイスを聞いた別の児童が別の方法を教えるなど、児童の気付きが次々とつながっている様子が見られた。また、教師が児童が何を考えているのか見取ることができ、適切なタイミングで有効な支援を行うことができた。

いろいろ つりやさん

きょうのおすすめ

制限時間を作るのがおすすめだよ。

自分たちもやってみよう

野球のボールはどうか

5人ずつできるように、工夫したよ。

ボーリングのたまを何にしたらよいか、悩んでいます。

ひみつのボーリングやさん

ヘルプ・ミー

### (3) 教師の働きかけ

#### 言葉かけの工夫

児童の言動に対して、そのよさを認めるなど児童の感情に訴えるような言葉かけを行うと、さらに児童が意欲的に気付いたことを記したり、話したりする様子が見られた。周りの児童も、その声を聞いて、気付くことも多く見られ、活動がより活発になった。

## V 研究の成果

### (1) 振り返り表現する機会の工夫

- ・ 1時間の中にも、振り返り活動をする場面は多くあり、振り返り活動を四種類に分類し、それぞれに応じた手立てを考えた。

「B 活動の直後に振り返る」では、学習カードの形式を工夫した。カードの中に「教師のメッセージ欄」と「それに対する児童の返信欄」を設けることが、児童の気づきを明確に見取り、その質が高まるような言葉を投げかけて、カードを通して気づきの質を高めることに有効であった。一人一人の児童の気づきに対する教師のメッセージを通し、そのよさが認められたり、新たな疑問を投げかけられることにより、児童の気づきの質が高まり、次の活動が意欲的に行えるようになった。

「C 活動の後、個々の気づきや思いを伝え合い、交流して再度振り返る」では、グループや学級全体で、個人の気付いたことを発表する場を、様々な学習場面で意図的に設定した。

その中で、他の児童の気づきを自分の思いや考えに取り入れるなど、児童の気づきを高め、思いを深める場面が多く見られた。

- ・ 単元の内容や、小単元の活動に応じた振り返り活動を設定することが必要であることが分かった。振り返り活動を指導計画の中に意図的に設定することが、気づきの質を高めることにつながるようになった。

### (2) 伝え合い交流する場の工夫

- ・ 児童がそれぞれで見つけた気づきを、「お試しコーナー」（実践事例Ⅱ『うごくうごくわたしのおもちゃ』）や「付箋（おすすめ、ヘルプ・ミーカード）」（実践事例Ⅲ『子どもフェスティバルをしよう』）で、少人数のグループまたは学級全体で振り返る機会を設けることで、児童の活動や思考の流れを切ることなく、共有することができた。共有した気づきや疑問は、児童にとって新たな気づきを生むことにつながり、意欲が高まったり、その後の活動が深まったりすることに結び付いた。

### (3) 教師の働きかけ

- ・ 教師の声かけ、関わり方によって、児童が気付く機会が増え、自覚していなかった気づきを認識することにつながることを改めて確認できた。
- ・ 思考の深まりを促すための具体的な児童の言葉（比べると…、どうして…、なぜかという…、いつもこうなるよ等）を常時掲示して言語環境を整え、その言葉を授業の導入やまとめで、児童自らを振り返る際に活用できるよう工夫した。その結果、一つ一つの気づきを、既習の学習や過去の経験と関連付けて考えることができるようになり、知的好奇心・探究心をもって活動する姿が多く見られるようになった。

## VI 今後の課題

- ・ 交流する場を単元の内容によって意図的・計画的に取り入れ、個の気づきを全体の共有につなげるような振り返りを、単元の指導計画に示していく必要がある。
- ・ 単元の内容によって振り返り活動を工夫する必要がある。カードや付箋以外の手立てで交流させる振り返り活動を検討していく。
- ・ 本研究では、振り返り活動を4種類に分類し、そのうちの2つを研究対象とした。対象外である「振り返り活動A」（活動しながら振り返る）や、「振り返り活動D」（単元全体を通しての振り返り活動）についても、今後検証をしていきたい。
- ・ 第1学年と第2学年の交流を取り上げる学習では、それぞれの学習の質をどう保障すべきか、双方向からの視点で、学習内容を精査し検討する。

# 平成24年度 教育研究員名簿

## 小学校・生活

地 区	学 校 名	職 名	氏 名
墨 田 区	梅 若 小 学 校	教 諭	大木 めぐみ
江 東 区	八 名 川 小 学 校	主 幹 教 諭	○藤田 暁美
江 戸 川 区	第 七 葛 西 小 学 校	主 幹 教 諭	◎水澤 亜樹
小 平 市	小 平 第 六 小 学 校	主 任 教 諭	小 西 陽 子
清 瀬 市	芝 山 小 学 校	主 任 教 諭	水 流 努

◎ 世話人    ○ 副世話人

[担当] 東京都教育庁指導部指導企画課  
指導主事 土屋 秀人  
東京都教職員研修センター研修部教育開発課  
指導主事 高瀬 智子

平成24年度  
教育研究員研究報告書

小学校・生活

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成24年度第243号〕

平成25年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6882  
印刷会社 株式会社 イマイシ